

都市環境デザイン会議 in 石川 2014Autumn

日時：2014年10月11日（土）
会場：金沢歌劇座（第6、7会議室）（石川県金沢市）
参加者：会員 26名、一般 16名 計42名
（小見直樹、安宅恵、島津勝弘、柳原恭順、上坂達朗、木谷弘司、小泉普、小間井孝吉、島由治、高田実、谷明彦、鏑隆弘、徳本修一、新田川貴之、福塚正浩、丸岡彦太郎、水野一郎、森俊偉、埒正浩、川上洋司、玉森慶三、峠岡伸行、飯田佑樹、鳥越友香里、中澤俊、宮里宜雅）

フォーラム「庭園とまちづくり」は、JUDI 北陸メンバー26名に加え、一般参加者の16名にもご参加いただきました。まず、北陸ブロック幹事の島津勝弘氏の挨拶、司会・進行は北陸ブロック事務局の埒正浩氏が務めました。



島津勝弘氏の挨拶



司会・進行の埒正浩氏

■ 講演(概要)

◆講演1「文化の森と金沢城玉泉院丸庭園」 丸山 隆史氏（石川県土木部 次長）

まずは、丸山隆史氏より、兼六園周辺文化の森について、また金沢城や玉泉院丸の歴史の変遷、復元される玉泉院丸庭園の石組み護岸や段落ちの滝の整備状況等、詳細にご説明をいただきました。

史跡城郭での庭園整備では、潜在化した芸術上・観賞上の価値を顕在化させ、骨格（地割・石垣）は維持継承、衣装（水・植栽）は現実的な対応として庭園を再現している。庭園には、生きもの（土・水・石・植物）、変化するもの（意匠・構造・技術）、観賞価値や嗜好の変化、流行・作法の歴史的な変遷など特性はあるが、現代における存在価値や場の活用を考慮して復元整備を進めている。



丸山隆史氏のご発表



発掘調査や庭園復元には、現時点で庭園が描かれた最後の絵図である御城分間御絵図（嘉永3年（1850）（前田育徳会蔵））を根拠としている。

玉泉院丸庭園は、池を中心とする典型的な池泉回遊式庭園で、兼六園に対して藩主の私的なコンパクトな内庭であり、意匠性の高い石垣群を取り込んだ他に類をみない立体的で独創的な城郭庭園が特徴である。石垣と泉水、中島は城郭庭園らしくマツと芝草による明快な修景、周辺はサクラ、モミジ、四季の草花により彩り、庭園鑑賞の休憩所を備え、石垣などのライトアップで幽玄の世界へ誘うことを整備方針としている。

◆講演2「加賀の庭」 植村 章英氏（株植宗園 代表）

続いて、植村章英氏からは、「金沢の庭」と「全国の庭」との対比や「庭」と「セド」の違いなどについて、造園業55年の経験をもとに、面白おかしくお話をいただきました。

「金沢の庭」の特徴は、繊細で細かいところまで気を配り造り込まれているところ。手水鉢や灯籠なども良いものが配置され、金沢の歴史や茶の湯との関係が深いからだと考えられる。



植村章英氏のご発表

「庭」はお客様を招き入れもてなす場所、「セド」は生活に密着している場所で薬草などが植えてある。庭師としては生活に役立つ「セド」のような「庭」を造り、本来の庭を楽しんでほしい。

◆講演3「地域コミュニティにおける庭」

徳本 修一氏(株)総合園芸 代表取締役(JUDI 会員)

最後には、徳本修一氏が、金沢だから和風の庭でオープンガーデンができる、外国がわが国の庭をどう見るかを意識してインバウンド観光資源として活用すべき、金沢版イエローブックができればオープンガーデンの展開へとつながっていくといったお話をいただきました。

小石川後楽園を地域住民に開放していたことに見られるように、世界のどこよりも早く日本のオープンガーデンは存在した。



徳本修一氏のご発表

オープンガーデンとは、洋風の庭のことだけではない。そして、和風の庭でオープンガーデンができるのは金沢であり、北陸新幹線が開業した時に和風の庭をインバウンドの観光資源として活用していくことが必要である。

■ パネルディスカッション

●パネリスト

丸山 隆史氏・植村 章英氏・徳本 修一氏

●コーディネーター

鏑 隆弘氏(金沢美術工芸大学教授(JUDI 会員))



パネルディスカッションの様子

パネルディスカッションは、ご講演いただいた3名をパネリストに、コーディネーターは鏑隆弘先生が務められました。

<パネルディスカッションでの主な意見>

- ・玉泉院丸は、あれだけの趣向を凝らした石垣をうまく配置している。どういう意図で、どういう藩主が指示をしたのか、石垣集団が遊びとしてやったのかというようないろいろな見方があると思うが、結果的に立体的なものになっているところが見どころの一つである。
- ・金沢らしさを伝えるには、金沢の暮らしを見せることが一番早い。暮らしの手前側に庭先があるわけで、日本の中でも宝庫である金沢はもってこいのステージである。他の都市と同じようなパンジーやビオラを植えるのではなく、山野草で金沢ら

しい季節感があるような表情をつくることによって、日本人はもとより、海外から来る人たちも、やっぱり一味違うな、降りた瞬間に、人の話を聞く前に目でもってらしさを享受いただけるのではないか。

- ・ハウスメーカーの造る建物はフローリングなどが多く、日本庭園と建物とは絶対合わない。そういう関係で、シャラとか、ヤマボウシとか、雑木みたいなものを植えて、何年かたつと元から切っちゃったりする。それより何も植えないで土だけにしておいた方がよほどよい。例えば、石を綺麗に掃除してある中に一つ置いただけでも結構庭の感じがする。そういうことをみんながすればよい。



左からコーディネーターの鏑先生、パネリストの丸山氏、植村氏、徳本氏

(水野)辻家庭園や西田家庭園を今オープンにしているが、その理由はとにかく維持ができない、市や県の文化財だが結局民間活力だということでああいう形となった。どうやって維持していくかということ、どこかで新たな努力をしないと、オーナーに頼っているという時代は終わったのではないか。また、今の人たちはそんなに植物や庭に恵まれているわけではなく、住宅でいうとほとんどの人が70~80坪ぐらいの宅地を買って、車の前庭で30坪、家で40坪つぶされ庭が取れない。庭を造れという



水野一郎氏

と最低110坪以上買ってくださいとなるが、それはほとんど不可能。そうすると、どうやって庭というものを楽しむかということ計画する必要がある。

(小間井)どんなプロセス・概念で、この金沢の庭園、日本庭園をオープンガーデンにしようとしているのか、フローリングの家には日本庭園はなじまない。小布施の話もあったが、素晴らしい日本庭園だなと多分思わない。

座敷の方から眺めて考えるのがやはり日本庭園で、どちらかというと自然の中でそれが凝縮されて出来上がっている気がする。



小間井孝吉氏

(鏝先生とめ)庭園を個人の楽しめることをいろいろと広める工夫をみんなでしていくことが必要である。また、公共はそういう楽しみを助けるような仕組みをつくるのが何かできればよい。ヒントとしては、人に見せる楽しみもあり、そういったことで暮らしが少し豊かになるというか、そういう色合いも濃くなる。そういったところを人が外から見にくるという、そういう仕組みもできるのではないか。

■庭園めぐり

庭園めぐりでは、鈴木大拙館→松風閣庭園（日本多家庭園）→玉泉院丸庭園を見学しました。

「玄関の庭」「水鏡の庭」「露地の庭」によって構成されている鈴木大拙館をスタートし、江戸時代初期に、古沼と自然林を生かして作庭された松風閣庭園では、鏝先生からご説明をいただきました。また、鈴木大拙館から中村記念美術館へ抜ける緑の小路では、設計者である上坂達朗氏にご説明をいただきました。



鈴木大拙館 水鏡の庭



鈴木大拙館 思索空間



松風閣庭園を見学する様子



緑の小路では上坂氏が説明



玉泉院丸庭園の池を望む



ほぼ完成している休憩所



丸山次長、大脇氏による玉泉院丸庭園での現地説明



玉泉院丸庭園は、一般公開前にも関わらず、丸山次長に加え、設計・施工・監理に携わられている大脇氏より、わかりやすいご説明をいただきました。

飛び入りメニューとなった「金沢城プロジェクト」では、いろいろな方のご尽力もあり、会場のほぼ中央で見事なパフォーマンスを楽しむことができました。



金沢城プロジェクトマッピングの様子

■懇親会

会場：オステリア デル カンパーニュ

参加者：会員 25 名、一般 5 名

恒例の懇親会では、JUDI メンバー 25 名とフォーラムでご講演、パネルディスカッションではパネリストをしていただいた丸山次長に加え、一般の 5 名にもご参加いただき、金沢の町家を改装したレストランで、いつものようにワインに料理を楽しみながら大いに盛り上がりました。第 2 回 JUDI パブリックデザイン賞の受賞報告や JUDI 協力法人である小松精練(株)からご参加いただいた木田さんからもご挨拶をいただきました。

また、JUDI プロジェクトとして北海道ブロックより協力依頼を受けた JUDI 人図鑑制作も承認されました。2015 年春は、ブロック総会の開催と併せ、富山県内において開催することを決定し、具体的な開催場所及び内容についての検討を、JUDI 富山メンバーを中心にお願いしました。



カンパーニュでの懇親会の様子



水野先生の乾杯でスタート



喫煙コーナーの面々



二次会は代表幹事玉森氏が乾杯

■庭園めぐり(その2) 「加賀市大聖寺・橋立」

日 時：10月12日(日) 9:30~12:00

場 所：石川県加賀市大聖寺・橋立

参加者：小見直樹、島由治、高田実、鰐隆弘、徳本修一、新田川貴之、水野一郎、埒正浩、川上洋司、玉森慶三、中澤俊、宮里宜雅

2日目は、加賀市大聖寺・橋立に舞台を移し、まずはNPO法人歴町センター大聖寺の瀬戸達事務局長のご案内により、旧大聖寺川の流し舟(八間道発着場から藩邸船乗場まで)で凜とした静寂な川面からゆとりの時間を堪能し、江沼神社の長流亭や庭園、大聖寺のまちなかなどを見学しました。

加賀市民をはじめ有志の皆さんの寄附により再建された時鐘堂では、特別に鐘をつかせていただきました。



旧大聖寺川の流し舟での様子



案内人兼船頭の瀬戸事務局長



江沼神社庭園



時鐘堂

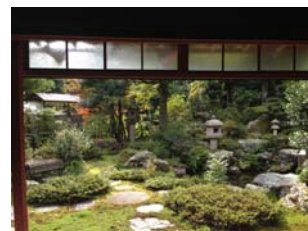
瀬戸事務局長の濃厚なご案内により、大変中身の濃い、充実した見学会となりました。江沼神社の熊野宮司からも重要文化財の長流亭について丁寧なご説明をいただきました。

橋立では、鰐先生に北前船主屋敷蔵六園や、地域活動による西出家庭園整備などのまちなかの取り組みをご案内いただき、見学しました。

蔵六園では、蔵六園命名の由来でもある亀石やつる石など全国の銘石を配した庭園を拝見し、日本海を雄飛した北前船主の隆盛な時代を垣間見ることができました。



蔵六園



蔵六園 庭園



橋立のまちなか散策の様子



割鮮しんとくでの昼食

●北陸ブロックの今後の活動予定

◇都市環境デザイン会議in富山

日 時：2015年春頃 会 場：富山県

—編集後記—

今回のJUDlin 石川 Autumn開催にあたりましては、石川会員の皆様には大変ご尽力いただき、誠にありがとうございました。ご参加いただいた皆様も、お疲れ様でした。大盛会となりましたこと、重ねて御礼申し上げます。

今回は、「玉泉院丸庭園」をはじめとする石川の庭園の魅力について触れ、それらを活かしたまちづくりについて様々な視点から議論していただけたことと思います。

また、第2回 JUDI パブリックデザイン賞では、製品賞に高田実氏応募の「瓦舗装材 瓦コンクリート@サイエンスヒルズこまつ」が、空間賞に新田川貴之氏応募の「金沢駅西広場」が選ばれ、北陸の素晴らしさを全国発信できました。

10/3~5のJUDI全国大会in札幌には、北陸ブロックからは6名の方がご参加され、プロジェクト報告会では、宮里宜雅氏が「自転車の似合うまちづくり—白山市鶴来における実験的試み—」の活動内容について報告しました。本プロジェクトについては、2014年公募型プロジェクトにも採択されましたので、益々の活動が期待されるところです。

さて、次回は来春(5月頃)、富山県内においてブロック総会との同時開催となります。詳細が決まり次第ご案内いたしますので奮ってご参加いただけますよう、よろしくお願いいたします。

【お問合せ先】

都市環境デザイン会議北陸ブロック

幹 事 ● 島津勝弘 (島津環境グラフィックス)

事務局 ● 埒 正浩・高永智恵 (株式会社日本海コンサルタント)

TEL 076-243-8281 / FAX 076-243-8309

E-mail m-rachi@nihonkai.co.jp

JUDI 北陸ブロックホームページ

<http://www.judi-hokuriku.gr.jp/>

JUDI 北陸ブロック Facebook ページ

<http://www.facebook.com/judi.hokuriku>